

ハート・オブ・ゴールド



通信

vol.49

2023年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org
<https://www.hofg.org/>



1月 これから日本語を学ぶ子ども達と、ティアラ先生（左上）

HG ももたろう日本語学校

プロジェクト・マネージャー 井上 恭子

2019年より、日本での就労希望を持つ学生をターゲットにしてきましたが、コロナ禍、円安の影響もあり、生徒数の確保が難しく、「日本を好きになる」日本語教育事業に方針転換を行いました。それにともない、シムリアップ中心部にあった校舎から、古巣のチェイ小学校内の日本語教室に移転しました。

12月から、チェイ小学校での保護者会で説明会を行ったり、近隣の市場で受講案内を配布したりと、生徒集めから始めました。市街地から離れたチェイ村でも、多くの小学生が習い事をしていることがわかり、まずは、習い事の一つとして、日本語を選んでもらうことが最初の一步となりました。実際に日本に留学経験を持つ教師や卒業生が紹介したことにより、保護者の方には現実的なモデルとして身近に感じられたようで、予定数の生徒が集まりました。

小学生に日本語を一から指導することは、教師にとっても新たなチャレンジになるとともに、自分達が日本語を学んだ教室ということもあり、当時のことを思い出しながら指導を行っています。6月現在、五十音を終了し、自己紹介の練習をしています。これからが楽しみです。

留学生 チュン・スライミーさん

2007年にハート・オブ・ゴールドの日本語教室第1期留学生に選ばれたスライミーさん。5月10日、留学以来16年ぶりに岡山学芸館高校を訪れました。森校長先生をはじめ、担任の先生や日本語指導の先生、寮の先生といった懐かしい方々にお会いして、結婚や仕事、日本語能力試験1級合格などたくさんの報告をすることができ、とても温かい歓迎を受けました。



岡山学芸館高校の先生とスライミーさん（中央）

留学生 チョーム・スライマイさん

2021年に留学予定だったスライマイさんは、コロナ禍により来日できない状況が続いていましたが、5月13日、やっと願いが叶い、日本へやってきました。シムリアップから外に出たのは、パスポートを作るときにプノンペンに行ったのが最初で最後で、初めて飛行機に乗ったときはとても怖がって、同行してくれた木下さんの手を握りしめたまま、絶叫したそうです。12人目の留学を受け入れていただいた岡山学芸館高校では、日本語学習を主として、2年生のクラスと和太鼓部、華道部に所属し、寮生活をしています。NCCCで生活してきたスライマイさんにとって、すべてが初めてのことばかりで、日本で学校生活を送るために覚えることがたくさんありますが、このチャンスが成長の糧となるよう本人は努力し、周囲はサポートしていきます。

スライミーさん達先輩が積み上げてきた実績が、留学事業の継続につながり、また、現在日本語を学び、留学を希望する生徒の目標となっています。

【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 体育科コース 4 年制大学化プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

2019 年 1 月より開始した I 期事業の最終年の本年はほぼ計画通りに活動を進めることができ 2 月末に無事終了しました。

1 月は日本体育大学岡出美則教授、カンボジア教育省の高等教育認定機関 (ACC)、高等教育局、司法局の担当官を招いて、NIPES の活動全体の評価会議を 3 日間開催しました。ACC が定めた 9 分野 73 指標 243 項目に従って評価し、NIPES が高等教育機関として認定されるために改善すべき事を明確にしました。

2 月には筑波大学山口拓助教、プノンペン教員養成大学副学長を招き、最後の体育教員育成研修会を実施し、カリキュラム・フレームワーク、シラバスと授業の一貫性、教員の人材育成、授業評価システムについて理解を深めました。

また、英語の体育専門書を翻訳、編集し、教育省の認可を得て 600 頁を越える NIPES 初めてのクメール語の教科書「体育の教授法と方法論」を印刷出版しました。



そして、これまでの成果と課題を踏まえて、3 月 1 日からは新しく「ICT 化による質の高い 4 年制体育教員養成大学支援プロジェクト」(3 年間、II 期)を開始しました。新事業は評価指標に従って改善の必要があると認められた図書館及び国際センターの運営、内部評価、教員養成、学生管理、卒業生支援、安全管理の 7 分野について、カンボジア政府が提唱する ICT 化を推進しながら、統一的に発展させていくことを事業目標としています。

3 階建て新校舎の建設を始めるとともに、ICT 作業グループを立ち上げ、既存の職員棟の情報通信ネットワークを整備しました。また、国際センターの設置に向けて、3、4 月にその機能を明確にする研修会と計画策定研修会を開催しました。5 月にはアセアン体育スポーツ学会 (ACPES) の理事が NIPES を訪問し、会合と ICT を活用した体育の授業についての研修会を実施しました。6 月の内部評価についての研修会と ICT 化推進研修会の後、7 月は本邦研修を予定しています。

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ 「Physical Education for ALL」プロジェクト

プロジェクト・オフィサー 森 洋貴

友達と協力して個人やチームの課題を解決しようとする子ども達。授業の目的を動きや、模造紙を利用してわかり易く説明する先生。体育の授業が単に身体を動かすだけでなく、態度や協調性を学ぶための時間として定着していることが、先生の話や実際の授業から窺い知ることができます。

1、2 月にプノンペン都、スヴァイリエン州、バットンバン州で実施された普及計画実践人材育成ワークショップでは、昨年以上に各地域の教育局担当官が率先して現場の先生と意見交換し、体育の普及方法を考えていました。地域によっては州教育局が独自に予算を確保し、学校をモニタリングする計画もあり、主体的に体育の普及が進んでいます。

続いて、2、3 月には体育授業のモニタリングを実施。新たに視察対象とした地域を訪れ、各校で先生から熱心に質問を受け、教育省国家トレーナー、教育局担当官が丁寧に説明し、最後には「次の授業に活かしたい」という声を聞くことができました。子どもが素直に先生の話



を聞く姿からも、一人一人の真面目さが今日のカンボジア体育の発展に通じていると感じられます。

また、教育・青年スポーツ省、一般社団法人 Social Compass、国立体育スポーツ研究所 (NIPES) と協力し、オンライン用の体育普及コンテンツの制作を進めています。2、3 月には NIPES の学生を出演者とし、エアロビクスとクメール体操の映像を撮影しました。将来の体育の先生となる学生達が出演することで、現場の先生や子ども達に親近感を持ってもらえそうです。学生からも動作やアニメーションへの積極的な意見を聞くことができ、映像に反映させています。こうした若い世代が将来のカンボジアの体育科教育を担っていくのは、頼もしい限りです。

本事業では、3 都・州全ての小・中・高に知識・技能・態度が学べる新しい体育を普及することを目指し、子ども達が健やかな身体と豊かな心を共に育む体育が広がっていく様子を今後も報告していきます！

障害者陸上支援

アドミニストレイティブ&プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

今年は5、6月に東南アジアのオリンピック・パラリンピックと呼ばれるSEA Games、ASEAN Para Gamesが初めてカンボジアで開催されました。今年はカンボジアパラ陸上競技会の開催を中止し、選手のモチベーションアップ、長くスポーツを続けていってほしいとの願いを込めて、Active People's Microfinance Institution PLC (AP) 様からのご支援で、協働でオリジナルデザインのジャージを作製し、パラ陸上選手らに贈りました。

また、例年通り岡山の株式会社エイコースポーツ様が集めてくださった200足以上のシューズ、約50枚のTシャツがカンボジアに届き、あわせてパラ選手らに贈呈しました。

6月の第12回ASEAN Para Gamesに向けて新しい選



かすみがうらマラソンに参加したチーン・チー氏(左)、チェト・イム氏(右)

手のリクルートも多く、足りていないものが多い状況だったので、選手らは、より一層トレーニングに励むことができると大変喜んでいました。

2022年11月に株式会社オーエックスエンジニアリングにて採寸した競技用車いす(レーサー)が、4月1日にカンボジアに到着し、パラ陸上選手への贈呈式が行われまし



贈呈されたお揃いのジャージを着るパラ陸上選手

た。初めて自分に体に合わせたサイズのレーサーに乗り、本格的にトレーニングをすることに期待を膨らませていました。

4月16日にはかすみがうらマラソンが開催され、コロナ禍以降4年振りにカンボジアランナーを派遣することができました。2022年12月4日に開催されたアンコールワット国際ハーフマラソンから、有森賞を受賞した2名のランナー、チーン・チー氏(義足・男性)、チェト・イム氏(義足・男性)が5kmに参加し、無事完走。大会後には東日本会員交流会への参加をはじめ、ご支援してくださっている株式会社ビジネスパートナー(AP 本社)、株式会社翌檜の方々に直接ご挨拶することができ、充実した日本滞在となりました。

6月3～9日、ASEAN Para Gamesが開催され、パラ選手達は、トレーニングの成果を十分に発揮しました。カンボジアでは多くのメディアに取り上げられ、功績が称えられました。まだスポーツに参加したことがない障害者、若い世代の障害者にスポーツの楽しさが届き、これから始めるきっかけとなることを願っています。

第32回 東南アジア競技大会 開会式

事務局長 西山 直樹



アンコールワットが浮かび上がったプロジェクションマッピング

5月5日に第32回東南アジア競技大会が、カンボジアが初めてホスト国として開催されました。東南アジアの11カ国が参加し、有森裕子代表が招待され出席しました。

有森代表が1996年に初めてカンボジアを訪れ、アンコールワット国際ハーフマラソンを走った時から約27年が過ぎ、このような国際大会を開催できるまで発展したことに大変感動していました。プロジェクション・マッピングによるカンボジアの歴史を紹介したパフォーマンスは壮大で、会場を埋め尽くしていた70,000人以上の観客から大きな歓声が挙がっていました。

カンボジアのスポーツの歴史に新たな1ページが刻まれたと共に、ハート・オブ・ゴールドとして、その一端に関わってこられたことを大変うれしく思います。

ニュー・チャイルド・ケアセンター (NCCC)

プロジェクト・アシスタント 平井 利恵

*柵の修復工事完了

NCCCは2007年に現在の場所に新築移転し、随時必要な施設を改修・整備してきました。2022年6月、老朽化した柵が隣接する田に一齐に倒れてしまいました。UNESCO世界遺産指定地域のため、カンボジア政府の許可に時間を要しましたが、岡山ロータリークラブ様のご支援を受け、12月に大規模な修復工事にとりかかりました。外柵、門扉に加え、新しい浄水システムの設置、食事棟の屋根・衛生棟の窓・保健室の壁の修理、下水工事が2月には完了し、安全な施設となりました。



*家族との交流



3年ぶりに家族との面会を再開しました。今回は里帰りではなく、子ども達の生活を知ってもらうため、NCCCに来ていただくことにしました。

ビン・ソパンさん、ソパニーさん、ワンニーさん、ソチアターさんは従姉弟同士で、親代わりのおばあさんとおばさんが、交通手段が限られた地域から村長さんのバイクを借りて来てくれました。子ども達はとても喜び、一緒に昼食をたべました。



ケン・ソムナンさんとナナさん兄妹は、祖父母が来られ、人懐こいナナさんはお二人の間に入って話をしていました。ソムナンさんは、おじいさんが伝えてくれるご親族の話をしっかりと聞いていました。

チョーム・スライマイさん、スライミエンさん、ラティさんのご両親、末妹さんは、スライマイさんの留学前に会うことができ、「しっかり勉強して、将来仕事に就けるように」とお母さんから励ましの言葉をかけられていました。



コロナ禍で思うように会えない状況が続いていましたが、ご家族は大きくなった子を前に、驚きと喜びを隠しきれませんでした。離れていても子ども達のご家族とのつながりを大切に思えるように、スタッフも心がけています。

*仏像の撥遣式と開眼式

NCCCにはカンボジアの家庭と同様に仏祠があり、事あるごとに手を合わせています。

6月20日、高野山真言宗総本山金剛峯寺の方々により、また真言宗南真会の皆様にもご立会いただき、薬師如来様の撥遣式、大日如来様の開眼式が執り行われました。子ども達はお坊さんの訪問に少し緊張気味でした。新しい仏様をお迎えした後は、思いやりある優しい象が周りの人の心を動かしていく話の紙芝居を使った法話をいただきました。

子ども達の心も多くの皆様のお力により育てていただいています。

※ 撥遣はつけん：仏像の魂を抜く。開眼かいげん：仏像に魂を入れる。



コロナ禍も落ち着き、2023年度が始まり学校も平常に戻りつつあります。

1、2学期に現地とオンライン交流を行った第3藤田小学校からの募金で、1月にNCCCにサッカーゴールが出来上がりました。

3月13日、清心女子高等学校での「カンボジアデー」に、現在介護施設で働いている11期日本語留学生のスライホームさんが参加し、カンボジアについて紹介しました。

5月9日には、第1期留学生のスライミーさんが、16年ぶりに岡山に帰り、朝日塾小学校で「日本とカンボジアの懸け橋に」と題してこれまでの努力と今を話しました。

5月18日には、第3藤田小学校にて出前授業を実施。世界、特に途上国を知る・交流することで、グローバルな世界を感じ、社会性を開発し、何かができるという自信を持ち、持続可能な生き方を取り入れることができるように促したいと思います。児童は真剣にうなずきながら話を聞いており、知りたい、何かしてみたいといった感想が寄せられ、先生達とは、今後密な連携をとって協力しあい、児童の変化を楽しみにしています。



ハート・オブ・ゴールド 福島クラブ総会・交流会

5月28日に、有森代表理事と西山事務局長が出席しました。福島クラブから寄付もいただき、交流会ではHGの今後の活動についても話



をすることができました。これからも連携した活動を進めていきたいと思ひます。

百間川ふれあいフェスタ

4月23日、4年ぶりに飲食ブースも出店して開催されました。HGのブースにもたくさんの方が立ち寄ってくださいました。岡山市北区の宇野学区地域のお祭りとして、岡山せとうちライオンズクラブ様が中心となって行われているもので、ご家族連れなど多くの方が楽しみにされています。当日は、NCCC事業への寄付金もいただきました。ありがとうございます。



岡山経済同友会 代表講演

4月28日、岡山経済同友会の定例幹事会兼文化・スポーツ委員会特別例会（約170名がご参加）にて、「よろこびを力に」と題して有森代表が講演を致しました。岡山での子ども時代や選手時代、オリンピック2大会への出場、そして、ハート・オブ・ゴールドの設立経緯や現在の活動など、岡山弁を交えながら予定時間いっぱい盛りだくさんの内容となりました。

会員交流会も再開しています！

もうすっかりオンラインには慣れましたが、対面を待ち望んでいた方も多く、会話が弾み、あっという間に時間が過ぎました。

次は、12月のスタディツアーと、3月の淀川マラソン後の西日本会員交流会です。会員の皆様、是非ご参集ください。



4月16日 東日本会員交流会



6月24日 会員交流会

みしま西山連峰登山マラソン ラストイベント / 第 50 回 川俣ロードレース大会

5月27日に、みしま西山連峰登山マラソンラストイベントとして、小学校の子ども達を対象にした有森代表の走り方教室が実施されました。子ども達は体幹の鍛え方、腕の振り方等を教えてもらい、1.5kmを楽しく走ることができました。その後の講演会「心の金メダルを目指して」には、地域の方々も参加されました。大会は終了しますが、関係者の方々には、引き続き一緒に何かを生み出していきたいと力強く話してくださいました。

5月28日には、第50回川俣ロードレース大会が開催され、有森代表が大会ゲストとして参加し、ランナーを大きな声で激励しました。50回という長く継続されている大会において、長い間参加されている方、初めて参加し有森代表に応援してもらったことを嬉しそうに話す小学生等、幅広い年齢層に愛されている大会でした。



川俣ロードレース大会でランナーを応援する有森代表

ARIMORI Cup 2023



アリモリロード ランナーとハイタッチ

5月21日、北海道むかわ町穂別の鶴川（むかわ）河川敷、通称「アリモリロード」を走るレースです。天気予報の雨は、スタート時にはまだ降っていませんでした。各ランナーはエントリー時に参加コメントを提出していて、審査員がそのコメントや走っている様子を見て、カテゴリー毎にチェックし、上位入賞者とは別に表彰されます。沿道で応援する人達に励まされ、次々とゴールをしていきます。最終ランナーを待たずにどしゃ降りとなりましたが、閉会式まで終えることができました。皆様、お疲れ様でした！

主な活動報告 (2023 年前半・敬称略)

- 1/18 岡山学芸館清秀中学校 3年研修受入れ (NCCC)
- 1/21 岡山学芸館高等学校 1年研修 受入れ (NCCC)
- 1/29 HG ももたろう日本語学校 日本語スピーチコンテスト参加
- 2/5 (一社) カルティベータ 設立3周年記念シンポジウム (代表)
- 2/18 NCCC オンライン法話 (高野山金剛峯寺)
- 2/26 理事会
- 2/27 外務省 NGO 連携無償資金協力署名式
- 3/1-2 バイヨン TV 代表・HG 活動現場取材
- 3/9 国際交流基金 HG ももたろう日本語学校訪問
- 3/13 清心女子高等学校カンボジアデー参加
- 3/19 第25回淀川マラソン&ウォーク (代表)
- 4/1 ポーサット州運動会視察
- 4/19 岡山国際交流センター パネル展示
- 4/16 かすみがうらマラソン 2023 (代表)、東日本会員交流会
- 4/23 第26回百間川ふれあいフェスタ出店

- 4/28 岡山経済同友会定例幹事会講演 (代表)
- 5/9 朝日塾小学校出前授業 (第1期留学生チュン・スライミー)
- 5/18 岡山市立第三藤田小学校 出前事業
- 5/27 みしま西山連峰登山マラソン 走り方教室 講演会 (代表)
- 5/28 第50回川俣ロードレース大会 (代表)
- 6/20 高野山金剛峯寺、南真会 NCCC 訪問
- 6/24 通常総会、会員交流会

主な活動予定 (2023 年後半) 変更あり

- 7/4 奈良県経済倶楽部火曜午餐会 講演
- 7/5-14 NIPES 教員養成 本邦研修 (東京)
- 7/20 アニモの会 (岡山)
- 9/10 第13回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 10月 JICA 本邦研修 (岡山)
- 11/30-12/4 カンボジアスタディツアー 2023
- 12/3 アンコールワット国際ハーフマラソン
- 1月 NIPES マネージメント本邦研修 (東京)

2023年9月10日(日) 8:30～

第13回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国開催

詳しくはおもちゃ王国 HP (<http://www.omochaoukoku.co.jp>) まで

アンコールワット国際ハーフマラソン 12月3日(日) 開催

今年は4年ぶりに、スタディツアーを実施。ご参加お待ちしております。

事務局より

* **HG 会員募集!** 友人・お知り合いの方をお誘いください。
正会員 (個人1口3,000円/年、法人1口30,000円/年)
賛助会員 (個人10,000円/年、法人50,000円/年)

* **あなたの想いを形にしませんか**

相続財産、または、遺贈としての寄付をお願いして おります。ご寄付には相続税がかかりません。
詳細は事務局にご相談ください。

* **集めています**

未使用の切手、レターパック、書き損じはがき、QUO カード、商品券などご寄付ください。本部事務局までお送りください。
* **ボランティア・インターン募集!** 本部事務局にて、事務補助、翻訳、イベント補助をしてくださる方。

【メールアドレスの登録をお願いします】

経費削減のため、通信やお知らせ等をメール配信する準備を進めています。ご協力いただける方は、右 QR コードをスマホなどで読み込み、登録用の画面で手続きをしてください。



理事会・総会報告

6月24日に、2022年度第4回理事会、2022年度(第25期)総会を開催しました。総会にて「2022年度事業及び決算報告」「2023年度活動計画及び予算」「(賛助会員設置に係る)定款変更」「役員の選任」が賛成多数により承認されました。新役員は以下のとおりです。(敬称略)

理事:(再任)合澤栄美、有森裕子、大倉宏治、片山浩子、
神崎浩二、田代邦子、西山直樹、松田久。

監事:(再任)本山光男、(新任)高橋誠、吉田光宏。

志澤公一氏が理事退任、大崎泰正氏が監事を退任されました。長い間、ありがとうございました。

2023年度第1回理事会により、有森裕子が代表理事に再任となりました。

新しい体制のもと、「できる人が、できることを、できる限り」続けていける仲間づくりを目指します。
引き続き、どうぞよろしく申し上げます。



ご支援ありがとうございます

(2022年10月～2023年3月・敬称略)

--	--	--	--	--

ハート・オブ・ゴールド オリジナル・グッズ

お待たせしました！

定番の“黄ロゴTシャツ”が入荷しました。

従来の綿素材から、ご要望が多かったドライタイプ
(ポリエステル素材)にチェンジしました。



Marathon de Paris 2023
Ms. Nakanishi

“黄T”を着て走ろう！キャンペーン

走るハート・オブ・ゴールド。とにかく目立ちます！
マラソン大会や日々のトレーニングに、ご着用ください。
そして、本品ご着用写真を本部事務局にお送りください。
通信、SNS等に掲載させていただきます。へビロテ歓迎♪

注文書

FAX: 086-284-9700

Eメール: hgkanri@hofg.org

氏名	(フリガナ)	サイズ (胸囲, 着丈)	金額	数量	小計
		S (94, 80)	1,500円 (税込)		
		M (100, 83)			
		L (106, 89)			
		LL (112, 89)			
				合計	
住所					
TEL/FAX					
Eメール					

※別途、送料実費が加算されます。

ご注文から商品受取りまでの流れ～



お問い合わせ
特定非営利活動法人
ハート・オブ・ゴールド
Tel/Fax: 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org

オリジナル・グッズの新商品を企画中です。皆様のご意見もお待ちしています。